

- 今世紀後半のできるだけ早期に「脱炭素社会」の実現を目指し、2050年までに80%の温室効果ガス排出削減に大胆に取り組む
- 1.5℃の努力目標を含む、パリ協定の長期目標の実現に向けた日本の貢献を示す
- 気候変動問題の解決には世界全体での取組と非連続なイノベーションが不可欠であり、ビジネス主導の環境と成長の好循環を実現する長期戦略を策定すべき

気候変動に関わる情勢の変化と長期戦略策定に当たっての視点

- 情勢の変化：国際社会における脱炭素社会に向けた議論の高まり（IPCC1.5℃レポート）
世界の資金の流れが大きく変化
企業にとって気候変動対策は、コストから競争力の源泉に
- 視点：世界の目標に貢献：国際社会の一員として1.5℃の努力目標の実現にも貢献
環境と成長の好循環の実現：非連続なイノベーションが不可欠
野心的なビジョン：積み上げでない究極の「未来社会像」をあるべき姿（ビジョン）として設定し挑戦
望ましい社会像への移行を示す、スピード感を持って取り組む、世界に貢献・発信

各分野のビジョンと政策の方向性

- 2050年に向けて、省エネ、再エネ、水素、原子力、CCS・CCU等あらゆる選択肢を追求し、エネルギー転換・脱炭素化
 - －再エネの主力電源化（劇的な低コスト化、投資の促進）
 - －水素社会の実現（CO₂フリー水素の製造コストを10分の1にすること等による生産拡大）
 - －パリ協定の長期目標と整合的に石炭火力からのCO₂排出を削減
 - －CCUの最初の商用化技術を数年内に確立、CCS・CCUを2030年までに実用化し世界への輸出を検討
- ゼロカーボンスチール等製造過程の脱炭素化や化石燃料を使用しない素材の開発利用によるモノづくりの脱炭素化を主導
- 「Well-to-Wheel Zero Emission」に貢献
- 2050年までにカーボンニュートラルで災害に強靱な快適なまちと暮らしを実現
可能な地域、企業から2050年を待たずカーボンニュートラルを実現、「地域循環共生圏」の創造

3つの主な政策

【イノベーション】

- 野心的なビジョンの実現に向けては、非連続なイノベーションが必要
(例：CCS・CCU、次世代蓄電池、水素製造・貯蔵・利活用、宇宙太陽光、次世代地熱、次世代原子力、海流発電、高度化した風力発電等)
- 実用化・普及のためのイノベーション、技術だけでなく市場、インフラ、制度・規制のイノベーション
- 鍵となる分野のコスト等の具体的目標を掲げた総合戦略策定と科学的なレビュー
- 世界から指導的人材を集めた国際会議を開催(RD20)

【グリーンファイナンス】

- イノベーションに取り組む企業の「見える化」（世界初の「TCFDガイダンス」による開示促進）や対話等を通じESG資金が集まるメカニズムを構築
- 日本の資本市場のグリーン・ブランド化

【ビジネス主導の国際展開・国際協力】

- 環境性能の高い技術・製品等の国際展開を通じ世界をリードし（省エネラベル等の制度構築と連動したビジネス主導の国際展開）、世界の排出削減に貢献
- 現地パートナーと組んで双方に裨益あるコ・イノベーション
- バリューチェーン全体を通じた削減貢献
- パリ協定の長期目標に整合的なインフラ輸出